



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2016.10

No.390

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



道東探鳥と香港の仲間たち

山口芳邦（新座市）

6月19日から1週間、香港から8名、埼玉から7名、総勢15名で道東へ探鳥に出かけた。ここ10年ほど、日本野鳥の会埼玉（以下「埼玉」）の鳥仲間たちと毎年香港へ出かけている。また別に香港の仲間の企画に参加して中国へ行ったり、逆に香港から来たりの交流を図っているので、お互い気心は知れている。2年ほど前にも冬の道東探鳥旅行をした。今回は、彼らとの2度目の北海道だが、「埼玉」の方達がよく知っている北海道の野鳥でなく、香港の仲間たちのことを中心に書くことにする。

● 彼らは行きと帰りがバラバラ

前回はそうだったが、旅慣れている彼らは北海道前後の日程がバラバラだ。道東探鳥は、6月19日早朝に羽田から釧路へ、道東をぐるりと回って、6月25日に釧路から羽田へ帰る行程だったが、香港の仲間全員が一緒だったのはこの1週間だけだ。剣岳や槍ヶ岳登山の経験のある女性は6月7日に1人で来日、北海道で登山やサイクルツーリングをした後、19日に釧路空港で落ち合った。2人の女性は10日に来日して18日まで温泉旅行を楽しんでいた。釧路から日本人7名と一緒に羽田に帰ったのは1人だけ。4人はグルメ探索のために釧路に残り、2日後に帰った。残りの3人は、富良野や札幌方面を楽しむために更に1週間ほど北海道に残った。

● 好奇心旺盛

大口径のレンズを持参したのは2名だけ。彼らは香港観鳥会のメンバーであり、勿論野鳥にはおおいなる興味を持っている。一方で鳥以外にも興味のあるものは何でもカメラに収める。風景、花、昆虫、人物、食べ物、店先の商品、看板などなど、ちょっと気になったものはなんでも撮る。撮ってすぐにフェイスブックにアップしたりする人もいる。また彼らはすこぶる夕日が好きだ。今回は残念ながら天候に恵まれず夕日を見たり撮ったりのチャンスが殆どなく、残念だったが。

● エネルギーシユ

前回は香港から男女4人ずつの8名で、参加した日本人は彼らのエネルギーシユでバイタリティあふれる行動に圧倒された。今回は物静かな男性1人に元気な女性7人、前回に比べ少々おとなしかったが、それでも日本人

から見れば彼らは元気の塊だ。

● 言葉

今回行動を共にした彼らは、総じて日本大好きで何度も日本に来ているが、日本語はわからない。広東語と英語で、所謂北京語もわかる（と思う）。私は長い間香港とかかわりを持ちながら中国語が話せない。つたない英語で何とか意思疎通に努めるということになる。

今回は中国語に堪能なKさんが参加されたので、たいへん助かった。彼らと鳥見をするのに中国語や英語が喋れればそれに越したことはないが、喋れなくてもなんとかなる。臆せず知っている単語を並べて努力すればそれなりに理解しあえるものだ。鳥の位置を教える場合、英語が面倒くさければ「ほら、あそこ、あそこ！」と指させば、だいたい相手はすぐ見つけてくれる。

とはいえ、外国人と鳥見をする時は鳥の英名を覚えておくと便利だ。一般的に外国人との鳥見の場面では、学名でなく英名でのやり取りになる。今はスマホの時代、彼らは英名がわかればその場でスマホを使い、姿や鳴き声まで確認し納得する。こちらがスマホを持っていればなお便利だが、英名の付いた図鑑があればそれでもよい。

● グルメ

香港の人たちにとって食事は大事だ。彼らは旅行する時は日本に限らずどこで何を食べるか事前に徹底的に調べる。値段にはあまり拘らない、高いものでもボンと注文する。年金生活の私のポリシーは「旅は軽く安く」、ここが彼らと違うところだ。

今回の北海道探鳥は、“安く”の私が企画したので、当然ながら昼食代は上限を設けた。

この点は彼らの旅行スタイルにはちょっと合っていないかもしれない。

● 年齢

今回参加した香港の仲間は、最年長でも、参加した

最も若い日本人より年下だ。香港の人口は埼玉県と同じくらいで、香港観鳥会の会員も1800人余りと当支部に似ている。但し、会員は増え続けているようだ。香港観鳥会の中に紅耳鶉倶楽部(Crested Bulbul Club)という年配者を対象としたクラブがある。入会資格は50歳以上。さて当支部にこれを適用すると……？ ここが日本野鳥の会埼玉と大いに違うところだ。

● 小事件

当然(?)のことがながら、高齢の我々の旅行なので、小さな事件には事欠かない。いくつか例をあげると、

① ホテルにカメラ置き忘れ：3件

2件は早く気づいてバスで戻り解決。

1件は自分のバッグの中にあった。

② 携帯電話紛失

一人の参加者が草むらで羽を探していたら、きらりと光る携帯電話を発見。近くのネイチャーセンターに届けるべくバスの運転手をお願いした。念のため、バスの中で携帯電話の電話帳をチェックしたら知った名前が出てきた。我々グループの人のものだった。

③ 迷子

クマの出没情報がある知床で出発寸前に女性1人がいない。しばらく探したが見つからず、携帯電話も繋がらない。バスの運転手に聞くと、他の人達全員が自然センターの建物に向かった後、遅れて下車した女性がいて、センターの建物横から裏へまわったようだという。2年前の冬にも歩いたコースなので多分我々が先に出かけたと思い、1人で後を追いかけたと判断し出発。センターの入り口に



は3日ほど前のクマ目撃情報が書かれている。職員に聞くといつ現れてもおかしくない状況ですという。音の出るものを持たない女性が1人で歩くのはすこぶる心配であったが、幸い彼女は無事に最終地点にいた。

● 最後に鳥について

今年6月の道東は例年になく、とても寒いということで、そのせいかどうか不明だが、出合ったパーダー達や現地地でガイドをやっている人達は、一様に今年は鳥が少ないと言っていた。梅雨のない北海道ということで天候はあまり気にしていなかったが、不運にも旅行中はあたかも梅雨のような天候だった。追い打ちをかけるように、目玉の一つであった落石ネイチャークルーズが海の状態が悪く2日とも欠航となり、楽しみにしていたエトピリカとの出会いが実現できなかった。それでも、73種を確認できたので文句は言うまい。前向きに考えよう。再訪の口実ができたということだ。

個人的に印象に残るのは、阿寒湖畔のヒナたちを背中に乗せて泳ぐカワアイサの家族、あちこちで見られたタンチョウやオジロワシ、何度か見られたオオジシギのディスプレイ飛行、ホテルの近くの梢で囀っていたノゴマ、春国岱のホウロクシギ、屈斜路湖で大きな魚を捕らえたミサゴ、和琴半島のヤマグラ、たくさんの虫をくわえたアオジ、ヒガラ、コゲラ、アカゲラ、ニューナイスズメなど子育て中の小鳥たち、あちこちで賑やかだったセンダイムシクイ、コヨシキリ、ノビタキ、声だけでなかなか姿を見せないシマセンニュー、元気なエゾセンニューの鳴き声などなど。

『おさんぽ鳥図鑑』をご紹介します

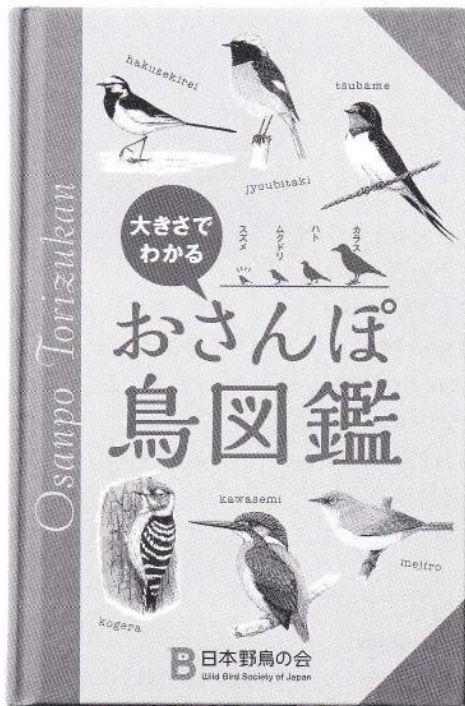
日本野鳥の会 普及室 堀本 理華

日本野鳥の会普及室では、これからバードウォッチングをはじめめる方向けに身近で見られる野鳥を紹介した小冊子『おさんぽ鳥図鑑』を発行しました（右 写真）。

『おさんぽ鳥図鑑』では、身近な野鳥 24種をからだの大きさによって「スズメの大きさ」「ムクドリの大きさ」「ハトの大きさ」「カラスの大きさ」の4つに分けて紹介しています（下 写真）。また掲載されている全ての野鳥の鳴き声をYouTubeで公開しており、パソコンやスマートフォンからお聞きいただけます。今年4月からHPや新聞等で広報し、配布を開始して以降、一般の方からも多くの申込みをいただき、8月初めまでに約23,000部を配布しました。

お申込みいただいた一般の方には、年4回、支部の探鳥会案内をお届けしています。実際に、5月のバードウィークに日本野鳥の会埼玉が三室地区で開催した探鳥会では、一般参加者38名のうち9名がこの案内を受けとった方でした。

普及室ではできるだけ一般の方に小冊子を申し込んでもらうために「小冊子プレゼントはがき」を作成しています。埼玉県内でこのプレゼントはがきを配布できるお店や施設、イベント等がありましたら普及室宛てメール nature@wbsj.org でお知らせください。プレ



ゼント葉書を通じたお申込みが増えると、より多くの方に探鳥会案内をお届けできるようになります。なお支部で初心者向けの探鳥会や学校対応等で『おさんぽ鳥図鑑』を活用したいという場合も nature@wbsj.org でご相談ください。





野鳥情報

さいたま市中央区本町西 ◇7月1日、与野公園の弁天池のカルガモ幼鳥10羽は、母ガモより少し小さく、脚は淡色。翼もまだ小さくて、翼鏡部分には水色の羽軸が並ぶ(大塚純子)。

さいたま市西区の鴨川 ◇7月3日夕方、根切橋上空でチョウゲンボウ2羽。「キッキキッキ」と鳴きながら東の住宅地の方へ飛び去った。7月6日夕方、島根橋～関沼で初見のカルガモ母子2組。幼鳥は親の2分の1位の大きさで5羽(学校橋下)と8羽(根切橋下)。カイツブリが2ヶ所で営巣・抱卵の様子。他にオナガガモ♂1羽、エクリブス羽に換羽中。2年以上前から居残り。コガモのペア、夫婦で居残り? アオサギ、カワセミなど。中州にアゲハチョウ多数(大塚純子)。

蓮田市黒浜沼周辺 ◇7月5日午前9時30分～11時、何となく、入れ替わりの時期になってきたのか、オオヨシキリの声が聞こえず、早くもコムクドリの姿が見られた(下写真)。1羽のみでぼつんと電線にとまっていた。7月20日午前9時～11時、十数羽のコムクドリの3つの群れが、行ったり来たりしていた。ムクドリのもう少し大きな群れも混在して、ややこしい。警戒心が強く、近づくと直ぐに飛び立たれてしまった(菊川和男)。



さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇7月8日午前9時～11時15分、上空でツバメがトンボを捕獲していた。数羽が入り乱れて捕食していた。黒浜沼に続いてコムクドリが観

察できた。電線の上に2羽、樹上にもいたが、葉の陰になってしまい、よく観察できなかった(菊川和男)。

春日部市武里中野 ◇7月9日午後5時35分、中野中学校の北西の電線にてコムクドリ3羽が並んで羽繕いしているところを視認。その後、ムクドリの群れに交じり行動。今季自己初認。7月15日午後6時頃及び7月22日午後6時20分頃、サッカーグラウンドの芝生にコチドリ約40羽が降りて休息していた。両日とも芝生が湿っていて、所々に水溜まりができていた。7月15日の際には遠方より2、3度「ホロロロ」の声を聞いた。チュウシャクシギ?の南下だろうか?姿は見え、未確認(石川敏男)。

北本市北本自然観察公園 ◇7月7日、キジ、カルガモ、カイツブリ、バン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ハクセキレイ、ホオジロ、コジュケイなど。7月10日、キジ、ゴイサギ、バン、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ヒメアマツバメ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、サンコウチョウ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、コジュケイなど。7月24日、カルガモ、カイツブリ、アオサギ、ホトトギス、ヒメアマツバメ、トビ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、ハクセキレイ、ホオジロなど。更に桜堤の向かいの池端でタヌキの子に遭遇。夏毛のほっそりした感じ(大畑祐二)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇7月10日、羽がボロボロのタカが屋敷林の上空を旋回した。7月28日、ここ数日、日中にウグイスが良い声で囀っている。ムクドリの群れ約300羽が朝夕上空を舞っている。屋敷林に時ができたようだ。7月29日、カワラヒワ2羽が電線で囀っていた。しばらくすると満開に咲いたヒマワリ畑に飛んで行った。2階屋の外壁に設けた換気口の上でツバメが4羽繁殖した。30日の朝、無事に巣立った(長嶋宏之)。

春日部市谷原新田 ◇7月10日夕方、安之堀川沿いにウォーキングしていると、秀和病院の周囲でチョウゲンボウ1羽が飛んでいる。旋回、急降下、ホバリングを繰り返す。この時は南風が強く吹き、これを上手に利用し盛んに飛び回ってくれた。秀和病院によく飛来するのは罫入り前のスズメが多く集まるからだろう。時には3～4羽が飛び交うこともある。7月15日午後、ムクドリの群にコムクドリ多数が混じっていた（石川敏男）。

春日部市増田新田 ◇7月15日午後5時20分頃、みどり住宅地東側、安之堀川沿の遊歩道の桜並木にコゲラの親子連れがいた。3～4羽。幼鳥に親が餌を与えていた（石川敏男）。

蓮田市関戸 ◇7月19日、アマサギ、コサギ、ダイサギの群れ。その中ではっきり亜麻色をしていたのが4羽いた。ヒバリが砂浴びをしていた。7月25日、コチドリ5羽が乾いた田圃で採餌していた（関口明宏）。

久喜市菖蒲町柴山枝郷 ◇7月30日 午前5時55分、イカルチドリ4羽（小貫正徳）。

鴻巣市大間一丁目 ◇8月1日午後5時30分ごろ、電線にコムクドリが8羽。少なくとも1羽は♂と確認したが、ぱっと飛び去る（榎本秀和・みち子）。◇8月3日午後4時ごろ、電柱にコムクドリが4羽。少なくとも3羽は♂と確認。20分後、飛び去った方向のTVアンテナに♂1羽♀1羽を見つめる。さっき見た群れの一部？（榎本秀和）。◇8月5日午前7時30分ごろ、上空をサシバ1羽が旋回。6～7羽のツバメのモビングを受けながら南西方向に飛び去る。8月18日午後5時過ぎ、10羽士のショウドウツバメに気がついた。空を見上げていたのは1～2分ほどの間だったから、ずっと眺めていれば、たぶんもっとたくさん見られたことだろう。今季初認（榎本秀和・みち子）。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ノビタキ属ノビタキ

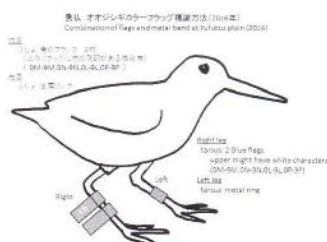
昨年10月29日。ひらりと飛んでトンボをくわえ、もとの見張り場に戻った。秋本番。

自転車男(さいたま市)

本部より、「オオジシギの目撃情報収集へご協力をお願い」が届いています。以下にその要旨をご紹介します。

日本野鳥の会では、今年度よりオオジシギの調査とその生息地である勇払原野（北海道苫小牧市）の保全に向けた「オオジシギ保護調査プロジェクト」を開始しました。

プロジェクトでは、勇払原野の保全の指標とすること、また、オオジシギにとって必要な環境や重要な生息地・中継地を明らかにし、適切な保全を行うことを目的に、まず今年度はオオジシギの渡りルートについて調査をしており、2016年7月に勇払原野で102羽のオオジシギにフラッグと標識を装着しました。



そこで、標識個体の目撃情報収集に、みなさまのご協力をいただきたくお願いする次第です。目撃情報の蓄積がオオジシギの渡りを解明する貴重なデータとなります。標識のパターン、観察項目、連絡先等は別紙(本部のHPなどを参照：編集部)をご参照ください。

また、同時に5羽に衛星追跡用のアルゴス送信機を装着しています。こちらは個体が北海道を出たら情報を公開していく予定です。

これらの詳しい内容や調査結果については、今後、当会のホームページなどを通し発表いたします。

<http://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/oojishigi-project/>
公益財団法人 日本野鳥の会 オオジシギ保護調査プロジェクト

〒141-0031東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル

oojishigi-pj@wbsj.org

電話：03-5436-2634



行事案内



オナガガモ エクリプス(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、岡安、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：赤とんぼが群れ飛ぶ公園で、立ち去る夏鳥たちにお別れを。桜堤にはコサメビタキとエゾビタキ。北里の森にはキビタキが潜んでいるかもしれません。ショウドウツバメも飛んでくれるかな。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月2日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：伊藤、赤堀、大井、須崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：この時期のWT(ウォッチングターゲット)は黒い頭と顔、つぶらな瞳のノビタキ。たくさんの眼で探しましょう。そして渡りのタカたちや、もしかしたらもう来ているコガモにも会えるかも。

ご注意：状況によっては、コースを変更する場合があります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：秋の渡りは最盛期、南に向かうエゾビタキ、ノビタキ、ツツドリ、ショウドウツバメなどを見送りましょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月15日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線・新越谷 7:21→春日部 7:35→南栗橋 7:53→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線下り大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線に乗り換え、柳生 8:06 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、山田

見どころ：谷中湖にはカモたちが戻ってきています。昨年は 10 種がみられました。もちろんチュウヒやミサゴなどの猛禽にも期待です。お気に入りの冬鳥をお楽しみください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月15日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、赤堀、浅見（健）、浅見（徹）、楠見、小菅、小林（み）、新部、畠山、増田
見どころ：10月は「ノビタキ探鳥会」です。一昨年は観察できませんでした。去年は全員が観察できました。今年もノビタキを求めて芝川沿いを歩く予定です。暑さ対策を忘れずに。

埼玉 Young 探鳥会 交流会（室内）_@東大宮（要予約）

期日：10月22日（土）

集合：午後6時15分、東大宮コミュニティセンター・第一集会室。

交通：JR 宇都宮線東大宮駅西口から徒歩5分。

参加費：100円

担当：石塚（敬）、小林（み）、廣田

内容：前半は自己紹介などで参加者同士親睦を深め、後半はNPO法人「オリザネット」の古谷愛子さんをお迎えて「なつみずたんぼとシギ・チドリ」をテーマにお話を伺います。詳細は当会HPをご確認頂き、お申込はHP内の専用フォームから。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月22日（土）～23日（日）

詳細は9月号をご覧ください。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月23日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR 行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り 9:05 発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原（修）、相原（友）、大坂、岡安、竹

「アシ、アシ原」から →「ヨシ、ヨシ原」へ

編集部

まずは、下記の「日本野鳥の会 支部ネット通信（メール版）2016年7月号 No. 170 ■7月号『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■」をお読みください。

<アシか、ヨシか？>

『フィールドガイド日本の野鳥』では増補改訂版（2007年発行）まで、アシ、アシ原と書かれていた部分を、新版（2015年発行）ではすべて、ヨシ、ヨシ原としました。

『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』ではヨシ、ヨシ原で統一していることに揃えたわけです。ヨシをアシと呼んでも、日本語として間違いとは言えないかも知れませんが、植物の標準和名としてはヨシが用いられているからです。

『しらこぼと』も新版（2015年発行）にならない、「アシ、アシ原」を「ヨシ、ヨシ原」に統一します。

山、立岩、内藤、野口（由）、村上、茂木
見どころ：猛暑の夏も終わり待望の冬鳥の季節の始まりです。公園内と周辺の農村地帯帯を散策し、やって来たばかりのジョウビタキと一緒に探しましょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：10月30日（日）

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き 8:47 発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本（建）、佐藤、佐野、進士、鈴木（誠）、田邊、野村（修）、野村（弘）、森下、吉岡

見どころ：公園内では、ホオジロ、カシラダカやオオジュリンを探します。池にはカルガモに加えマガモ、コガモなどが訪れています。近隣の屋敷林ではジョウビタキやモズが出迎えてくれるでしょう。



行事報告

3月6日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 47名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イカルチドリ イソシギ トビ オオタカ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (40種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 冬鳥はまだ大部分が見られたが、河原ではハクチョウやカモ類がすでに飛び立ち、種数、羽数ともに寂しい限りだった。それでも荒川沿いには賑やかにカラ類の混群、またイカルを間近でじっくり全員が見られた。玉淀大橋ではオシドリ……のはずが、今年は耐震化工事のため全く見られなかった。

(茂木幸蔵)

3月27日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 44名 天気: 曇

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ シマアジ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ ムナグロ イカルチドリ コチドリ シロチドリ ツルシギ エリマキシギ セグロカモメ トビ チュウヒ ノスリ ハヤブサ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (48種) (番外: ドバト) 探鳥会開始前にカオジロガビチョウとツバメを確認。開会后、まずは干し上げ中の谷中湖でシマアジが見られた。干潟状となったところではチドリ3種が。谷中ブロックへ進むとチュウヒ、東谷中橋ではハヤブサと、お馴染みの猛禽が飛んでくれた。史跡保全ゾ

ーンから湖を覗くと遠くにシギが数羽。エリマキシギとツルシギと判定。前日がヨシ焼きだったが、探鳥には影響はなかったようだ。 (佐野和宏)

3月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 22名 天気: 曇

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ダイサギ コサギ パン オオバン ヒメアマツバメ コチドリ ツミ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (35種) (番外: ドバト) 開始早々運のいい数人がツミに出会った。アオジやジョウビタキなどの冬鳥が残る中、今年もツバメとコチドリがやってきた。稲荷山公園そばのカタクリがちょうど見ごろを迎えている。例年通りの穏やかな3月の探鳥会だった。

(長谷部謙二)

3月30日(水) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 47名 天気: 曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ パン オオバン コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (41種) カモたちの殆どは北に帰ったが、この名物のヨシガモはまだ20羽以上残っていた。オオジュリンはあちこちに現れたが、ジョウビタキやアオジ、カシラダカなどはもう数が少ない。砂利場にはコチドリが走り回り、芝生ではヒバリをじっくりと観察できた。樹林に止まるオオタカに歓声が上がった。

(相原修一)

4月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 41名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ パン トビ オオタカ コゲラ アカゲラ カケス ハシボソ

ガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ スズメ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ アオジ (30種) (番外: ガビチョウ) 開始直後にユリノキの梢にシメ。エドヒガンは葉が出て来たが花も少し残っている。エドヒガンの前でキジのみ。北口近くでは杉林からイカルの声。上空にオオタカのペア。満開の桜堤へ。河川敷で「カワウ!」の声。6番柱の所で皆さんと相談。時間の関係で、蒲ザクラを諦めた。北里の森沿いの湿地でシロハラ。高尾の池のバンも久しぶり。八つ橋を渡った正面の湿地で最後の探索。アオジ、シロハラ、ツグミを発見。(吉原俊雄)

4月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 22名 天気: 曇

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ コサギ オオバン コチドリ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) 小雨もすぐに止み、鳥達も次々出てくれた。桜は満開とはいかなかったが、他の花々が沢山咲いていて、春を感じる事ができた。天候の影響で参加者は少なめだったが、やっぱり春4月は、花の咲くこのヘルシーロードコースを歩いていこう。第1調節池だけが民家園周辺じゃない。(伊藤芳晴)

4月9日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 38名 天気: 晴

コジュケイ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ カイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ コチドリ トビ コゲラ アオゲラ ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (27種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 最初に目を引いたのは冬鳥シロハラだった。夏鳥の先陣ツバメを仰ぎ見ながら、トトロの森周辺を歩くと、カン高いアオゲラの声。2羽が鳴き交わしているの、目を凝らし、濃くなる新緑の中に姿を確認した。湖上には、ハジロカイツブリの群れが夏羽で浮いており、岸边にはコチドリが元気よ

く歩き回っていて、期待通りに冬と夏を楽しむことが出来た。「鳴き交わす声をたよりに目を凝らし新緑まぎれのアオゲラを観る」(石光 章)

4月10日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 34名 天気: 曇

キジ キジバト カワウ ハクセキレイ トビ オオタカ サシバ ノスリ クマタカ コゲラ アオゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイムシクイ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (32種) (番外: ドバト、ガビチョウ、ソウシチョウ) 満開の桜を見ながら宝登山へ向かう。カワウが何度も現れ「猛禽?」「いや違う」。冬鳥のツグミ、シメ、カシラダカ、夏鳥のハクセキレイ、サシバ、センダイムシクイ、番外でソウシチョウなどが観察され、猛禽類は6種。鳥合わせで「見た。見られなかった」と盛り上がる、まさに花鳥風月な探鳥会だった。(井上幹男)

4月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 33名 天気: 曇

コジュケイ キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ コチドリ トビ ツミ オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ アオジ (36種) (番外: ガビチョウ) まだ土手上では冬の小鳥が鳴き、コゲラが目前に出現した。遠方からはコジュケイ、キジの声もあった。上空には猛禽類が3種類。例年カシラダカが多かったが、今年はやや少ないようである。ゴルフ場周辺には常連の小鳥も出て、河原に行き水鳥も見ながら平年の探鳥会状態に追いついた感があった。(茂木幸蔵)

4月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、三ッ矢正安、吉原俊雄

4月17日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 23名 天気: 曇

キジ カルガモ キジバト カワウ バン コチドリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (25種) (番外: ドバト) 強風下、内牧黒沼公園への往復を除き、なるべく樹林内の道を選んで探鳥した。案の定、鳥影は少ないが、あちこちでキジの「ケンケン」という声を聞き、姿を目にすると春もたけなわと思う。探鳥には不適な天気にもかかわらず参集いただいた会員の方々により、25種も確認できたことは、これぞ探鳥会なる場の力といえよう。(石川敏男)

4月17日(日) さいたま市 三室地区

荒天のため中止。(須崎 聡)

4月24日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園 Young

参加: 78名 天気: 雨後曇

コジュケイ キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ チュウサギ コサギ クイナ ムナグロ コチドリ タシギ クサシギ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ サンショウクイ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイムシクイ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ コムクドリ アカハラ ツグミ ノビタキ キビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (46種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 「早い時間帯で雨は上がる」の予報を信じて現場へ。“浦和駅”組より「既に30名を超す皆様がお集り」の一報。そして受付終了時にはなんと78名! 傘を差しながらのスタートも早々鴨川でカワセミやホオジロ、更にはクサシギ、コチドリ等を確認。続いて田園地帯。この頃には雨も上がり、定番キジ、オオヨシキリ、セッカ、そしてノビタキまで登場。休憩場所ではコムクドリの群れに大盛り上がり。ただ、森に入ると前日の下見で確認出来た夏鳥達の声がさっぱり(涙)、そのままゴールへ。鳥合せ後は恒例の“お茶会&じゃんけん大会”で盛り上がり、その最中にお目当てのオオルリも出現! (石塚敬二郎)

4月27日(水) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 52名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ コチドリ カワセミ コゲラ サンショウクイ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ツバメ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (30種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 渡りのヒタキ類などで賑わっていたピクニックの森だが、今日は何もないらしい。田んぼのサギ類なら大丈夫と思って、開始の挨拶では明るく「チュウサギなどがいまへす」。その田んぼにはキジだけ。これじゃ“イルイル詐欺”だ(サギだけに)。オオヨシキリがよく見られて助かった。渡りの時季の探鳥はギャンブルだ。しかし鳥合わせのとき、サンショウクイのひと声。まさに“天の声”だった。(小林みどり)

4月29日(金、祝) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 19名

石井智、石塚敬二郎、伊藤和子、海老原教子、海老原美夫、大谷泰久、大塚純子、岡部清美、小島實、小沼巖、小林みどり、鈴木博美、富田英紀、富田由香、藤掛保司、藤田敏恵、湯本貴光、吉原早苗、吉原俊雄 ◇ 結果は2016年7月号『しらこぼと』で発表済み。(石井 智)

5月1日(日) 栃木県 小倉山森林公園

参加: 40名 天気: 曇

キジバト アマツバメ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ サンショウクイ モズ カケス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ エゾムシクイ センダイムシクイ メジロ カワガラス コサメビタキ キビタキ オオルリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ (33種) オオルリ! キビタキ! サンショウクイ! 参加者全員が堪能! 埼玉よりはるばる来ていただいた参加者全員が見られた。いるはずだとは思っていたが、森林公園に入るといきなりのオオルリ。ホッとした。鳥合わせの最中もオオルリやサンショウクイ。なかなか鳥合わせも出来ず、リーダーとしてはこんな嬉しいことはなかった。(青木正俊)



● 全国総会、関東ブロック協議会に参加準備

11月12日(土)～13日(日)に千葉市内で日本野鳥の会平成28年度連携団体全国総会、11月19日(土)～11月20日(日)に青梅市内で日本野鳥の会関東ブロック協議会が開催されます。それぞれに当会からも参加すべく、準備を進めています。

● 吾妻支部代表交代

7月1日づけで松本倅市郎旧代表から植木正勝新代表に交代しました。年度途中なので、事務局はしばらくの間今まで通り松本氏が担当するとのこと。

● (公財)山階鳥類研究所第26回鳥学講座

山階鳥研と我孫子鳥の博物館は、ジャパン・バード・フェスティバル2016(11月5日～6日、我孫子市内)にあわせ、第26回鳥学講座「コアジサシ保全活動の現場から」を開催します。

講師：北村亘(NPO法人リトルターン・プロジェクト代表)

日時：11月5日(土) 13時30分～15時00分(開場13時00分)

場所：アビスタ(我孫子市生涯学習センター)ホール(定員120名)我孫子市若松26-4

交通：我孫子駅南口から「アビスタ・市役所経由」バスで「アビスタ前」下車。

参加費無料。事前申し込み不要。

主催・問い合わせ：

我孫子鳥の博物館(TEL 04-7185-2212)

山階鳥研(TEL 04-7182-1101)

● ごめんなさいコーナー

前号12ページ「7月の活動、7月9日、7月号校正」は、「8月号校正」の誤りでした。

● 会員数は

9月1日現在1,738人。

活動と予定

● 7-8月の活動

7月28日(木) 武蔵丘陵森林公園(滑川町)地域懇談会バリアフリー分科会に出席(藤掛保司)。

8月13日(土) 『しらこぼと』9月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

8月21日(日) 役員会(司会：相原修一、各部の報告・関東ブロック協議会などの参加者・その他)。

8月22日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』9月号を郵便局から発送(事務局)。

● 10月の予定

10月1日(土) 編集部会。普及部会。

10月8日(土) 11月号校正(午後4時から)。

10月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

10月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

この公園はツツドリが多い。アメリカシロヒトリがボタボタと落ちてくるほど多いからだ。その1羽を見ていたら短時間のうちに7匹をたいらげた。その喰いっぷりに「もしかしたら人が食べてもうまいのかも。特にのどを通るときにあの毛がたまらんぞ」などと思ったのは自分だけか？(山部)

しらこぼと 2016年10月号(第390号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gvomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社